OMU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OMU students



プロフィール (Profile)

氏名(Name) TE 所属(School)医学部 医学科 学年(Grade)3 年

留学先(Name of overseas institution)
ICIPE (International Centre of Insect Physiology and Ecology)
留学期間 (study abroad period)
2022/9/20~2022/10/20

留学レポート Study Abroad Report

【プログラム参加を決めた経緯】

医学科は3年の後期に医学研究推進コース3という授業があり、そこではそれぞれが自分の興味に合う教室を選び、そのテーマに沿った実習を行っていきます。基本的には学舎で実習を行うのですが、この寄生虫学教室ではケニアでのマラリアの調査に参加させてくれました。マラリアではありませんでしたが、もともと寄生虫に興味があったのと、ケニアに行けるという二つのことから、私はこのプログラムへの参加を決意しました。



 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

☆

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

☆

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

 $\overset{\wedge}{\Rightarrow}$

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

【実習内容】

☆

☆☆

☆ ☆

☆☆

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

☆ ☆

☆ ☆

☆

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

☆

☆

☆

☆

☆

☆

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

☆

☆

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

☆

☆

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

☆ ☆

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

主な実習内容は近隣の小学校に行っての標本の採取と学校ごとの感染率の調査でした。調査は現地の☆ CHV(Community Health Volunteer)、Labo Technician と協力して行っていきました。ここで少しケニア☆ の言語事情についての説明です。ケニア全土で伝わる共用語としてスワヒリ語を話し、第二外国語として英語を話します。そしてそれとは別に、生まれた地域に根差した言語(私の実習先の Mbita ではルオ語)を話します。このように基本的にはトリリンガルなケニア人ですが、普段の会話は地域の言葉で行います。そのため小☆ 学生、特に低学年は英語がまだ話せないので、最低限の現地の言葉を覚えて指示する必要がありました。子供☆ たちは肌の色が黒くない私たちに興味津々なのですが、シャイな子が多く、こちらから近づいていくと離れて☆ いってしましました。



【垷地の生活】

生活の基本となる食事と町の様子について話します。食事はメイズ(白いトウモロコシ)の粉を熱湯に入れて練☆って固めたウガリとケールを炒めたスクマウィキにトマトベースの味付けをされた牛肉、鶏肉、魚の中から一☆つ選ぶ形です。アフリカでご飯というと何かクセがあったりしそうなものですが、そういったものは全くな☆く、日本人の口にも合うとてもおいしいものでした。ただ、ウガリについては好みが分かれるようでした。パ☆ンとジャムは豊富にありました。

町には人がたくさんいてにぎやかです。道路の端で商品を広げて商売をしている人や、マンダジ(ケニア風ド☆ーナツ)やシムシム(ゴマを砂糖で固めたボール状のお菓子)をバケツに入れて売り歩いている人などがいます☆ 移動手段としてバイクタクシーが発達しており、バイク乗り場では多くの運転手が客待ちをしていて、通り過☆ ぎる際には乗らないかとよく誘われます。

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$ $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$ $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

☆

☆ $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

☆

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

☆ $\overset{\wedge}{\Rightarrow}$ ☆ $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$ $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$ $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$ $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$ $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$ ☆ $\overset{\wedge}{\Rightarrow}$ $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$ ☆ $\overset{\wedge}{\Rightarrow}$ $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$ ☆ $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

☆

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

 $\overset{\wedge}{\Rightarrow}$

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

☆

☆

☆

☆ ☆ $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

☆

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

☆

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

トマトソースに入れたもの

鶏肉のトマトソース





牛肉のトマトソース

牛ホルモンのトマトソース



☆ $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

☆

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

☆

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$ ☆ ☆

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

☆

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$

 $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$ $\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$ ☆





【帰国後の心境】

私はこの実習を経験してから、いろいろなところを見に行きたくなりました。今まで、写真や動画、教科書な どで世界がどんな様子であるかを見て、それだけでもすごい、世界にはこんなところがあるんだ、と思ってい ましたが、やはりよく言うように自分の目で見て体感するのは違いました。世界にはまだまだ写真でしか見た ことがない場所はたくさんあるし、国内だってそうであることに気が付きました。日本に関しては簡単にいく ことが出来るので、行ったことがないところがなくなるぐらいまで行きつくしてみたくなりました。また、将 来の職業について新たな選択肢が増えました。これまでは国内の病院に就職してそのまま最後まで働き続け るという将来像を持っていましたが、WHOや国境なき医師団に就職していろいろな国を転々としながら世界。 を舞台に働くのも楽しそうだなと思えたからです。多くの刺激を与えてくれたケニアでの生活の機会を与え ていただけたことには感謝しかありません。

【海外での活動を考えている皆さんへ】

海外で活動するチャンスがあり、時間的、経済的余裕がある人はチャレンジすることをお勧めします。日本で は当たり前のことが当たり前ではない世界、自分の言葉が通じるか通じないかのヒリヒリ感となんとか通じ たときの達成感、町全体から漂っている空気感、ケニアでの一か月は刺激にあふれていました。その生活は皆☆ さんの価値観に変化を与えるかもしれませんし、将来の展望に影響を与えるかもしれません。また、海外での☆ 生活が自分に合えば、自分の将来の活動の場として海外が選択肢の 1 つに入ってくるでしょう。ポジティブ な結果が得られるとは限りませんが、それも人生の財産になることは間違いないと思います。

この文章が、皆さんの海外への一歩の後押しとなり、皆さんが海外で有意義な経験を積むことが出来ることを☆

心から願っています。





